

日本写真学会 第32回カメラ技術セミナー

2025年11月21日(金) 10:30~19:30 東京都写真美術館

主催 (一社)日本写真学会 カメラ技術研究会
協賛 (一社)画像電子学会, (一社)日本印刷学会, (一社)日本画像学会, (一社)日本オプトメカトロニクス協会
日時 2025年11月21日(金) 10:00(受付開始) 10:30~19:30(情報交換会含む)
会場 **講演会** 東京都写真美術館 1F ホール (〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内)
情報交換会 YEBISU GARDEN CAFÉ (恵比寿ガーデンプレイスタワー3F)
参加費 正会員・賛助会員・協賛学会会員 10,000円 非会員(一般) 11,000円
学生会員 3,000円 非会員(学生) 4,000円

申込方法 参加申込の方は、参加募集ページ→ <https://forms.gle/tjU5PwrrG28GV7uDA> で参加区分(参加費別)のボタンを選択し、「参加登録」(Google Forms)に記入・送信した後に、「お支払いへ」お進みください。 ※こちらの QR コードからも申込出来ます。

参加費支払 「お支払いへ」ボタンからリンクする支払サイトで参加費をお支払いください。
支払い方法は、クレジットカード、ApplePay または GooglePay が利用できます。

申込締切 2025年11月7日(金)

連絡事項 講演終了後、情報交換会(17:30-19:30)を開催致します。参加無料ですので、ぜひ最後までご参加ください。
講演テーマおよび講師については、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
最新の情報は、日本写真学会ウェブサイト(<https://www.spj.jp/>)をご確認ください。

プログラム

10:30~10:40 開会挨拶

10:40~11:25 講演1 RICOH GR 用 HDF (Highlight Diffusion Filter) の開発

中山貴裕氏 (リコーイメージング株式会社)

リコーイメージングは2024年4月に、RICOH GR III HDF および RICOH GR IIIx HDF を発売した。本製品は、従来のシャープな描写に加えて、ハイライト部を拡散して、ワンタッチで柔らかな写真表現が楽しめる新開発の「HDF(Highlight Diffusion Filter)」を内蔵した製品となっている。本講演では、その開発や技術内容について紹介する。

11:35~12:25 講演2 EOS R1/R5 II 搭載 Dual Pixel Intelligent AF 技術

福田浩一氏 (キヤノン株式会社)

キヤノンは、EOS R シリーズの新世代の AF システムとして、Dual Pixel Intelligent AF を開発し、フラッグシップ機 EOS R1(2024年11月発売)とハイエンド機 EOS R5 II(2024年7月発売)に搭載した。Dual Pixel Intelligent AF では、新開発のクロス AF(EOS R1のみ)や、最新のディープラーニング技術を駆使したトラッキング AF、スポーツシーンのシュートなど瞬時の決定的プレーを自動認識するアクション優先 AF など先進的 AF を実現した。本講演では、この Dual Pixel Intelligent AF 技術について解説する。

13:30~14:15 講演3 ラージフォーマットレンズ一体型カメラ FUJIFILM GFX100RF の開発

田村一紀氏 (富士フイルム株式会社)

富士フイルムはラージフォーマットセンサーを搭載したレンズ一体型カメラ GFX100RF を発売した。本機は小型軽量かつ、こだわりぬいたデザイン・操作系、センサーの特徴を活かした新機能など、多彩な魅力を持っている。本講演ではその開発背景や技術について紹介する。

14:25~15:10 講演4 LUMIX S1 II シリーズの手ブレ補正技術

櫻井幹夫氏 (パナソニック エンターテインメント&コミュニケーション株式会社)

LUMIX は2025年に、S1R II をはじめとして S1 II、S1 II E といったハイエンドモデルである S1 II シリーズを発売した。本シリーズでは、「クロップレス動画周辺歪み補正」をはじめとした、ユニーク/特徴ある手ブレ補正機能を数多く搭載し、好評を得ている。本公演では、この S1 II シリーズに搭載されている手ブレ補正機能について紹介する。

15:20~16:05 講演5 大型光学システムとしてのすばる望遠鏡の維持と性能向上

沖田博文氏 (大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 ハワイ観測所 (三鷹))

すばる望遠鏡は国立天文台の運用する有効口径 8.2m の光学赤外線望遠鏡である。地球上で最も観測条件の良いマウナケア山頂 (標高 4200m) に設置され、国際共同利用観測が年間を通じて行われている。ここで一般に望遠鏡は直接外気に曝されるため光学系は経年劣化し観測に影響を及ぼす。光学部品が大型であることも保守を困難にする。本講演では現場の視点から、どのように光学系を評価維持し、また性能向上に取り組んでいるか紹介する。

16:15~17:00 講演6 相原流 被写体別カメラ機材の使い分け

相原正明氏 (写真家)

- A) 旅するカメラ コンビニに買い物に行ける F1 マシンのようなカメラ FUJIFILM GFX100RF
- B) 撮る楽しみ、見る楽しみ FUJIFILM X half
- C) LEICA モノクローム&シネライク A2 での世界観 LUMIX S1R II
- D) マイクロフォーサーズでのスポーツ撮影 LUMIX G9PRO II +LEICA50-200mm&100-400mm
- E) スナップが撮りたくなるカメラ SIGMA BF
- F) Nikon Z9 夜鉄のためのカメラ

17:00~17:05 閉会挨拶

17:30~19:30 情報交換会

問合せ先 (一社)日本写真学会事務局 カメラ技術セミナー係
E-mail : info@spj.jp Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887

